

河野浦が生んだ偉才、

9代目

右近権左衛門



九代目右近権左衛門肖像（右近家蔵）

幕 末明治期、河野浦（現在の南条郡南越前町）に生まれ日本の海運に新時代を築いた男がいます。男の名は9代目右近権左衛門（権太郎・廣隆）。彼は、その経営手



八幡丸船模型（右近家蔵）

腕により、後に、日本海有数の北前船主として名を残すこととなります。河野浦は越前海岸の南端、敦賀湾のほぼ入口に位置します。平地が少なく、山と海の間が密集する集落で、古くから海運の浦として府中（現在の越前市）と敦賀を結ぶ海陸の中継地の役割を担っていました。代々この地に住んでいた右近家は、17世紀後期ごろから海運業を営み、7代目、8代目の頃に、「買い積み」商い（各地で買い入れた商品を利益の出る港に運び高く売る商

売）に乗り出します。そして幕末明治期にこの「買い積み」商いを大きく発展させたのが9代目権左衛門なのです。

彼は、文化13（1816）年、河野浦で生まれ、17歳で船頭となります。廻船を率いる知識や技術を会得します。彼は従来から右近家が所有していた廻船に加え、大坂の間屋商人和泉屋や近江屋と廻船の共同経営を行います。情報収集に長けていた彼は、幕末に急拡大した蝦夷地・大坂間の魚肥の価格差を利用し、利益を急増させます。文化年間（1804～1818）、2、3艘だった持船は幕末には11艘を所有するまでになり、利益は1万2千両（現在の価値で12億円）に達しました。彼の経営手腕により、右近家は日本海有数の北前船主となったのです。

彼は廻船経営で得た利益を地域の社会インフラ整備に充てます。明治初年、中村三之丞（卯のすけ）、9代目権左衛門の弟）とともに、多くの私財を投じ、武生から春日野を経て河野浦に至る「春日野新道」を開削します。この新道開削には多くの地域住民を雇用しており、廻船経営で得た利益を地域に還元したのです。明治21（1888）年、9代目権左衛門は72年の生涯を終えます。没

後の明治25（1892）年、経営拠点とした大阪の一心寺（大阪府大阪市）に顕彰碑が建立されました。顕彰碑には親交のあった150名余りの名が刻まれており、多くの人々から敬愛を集めていたことがうかがえます。

関連史料・ゆかりの地

北前船主の館右近家（右近家住宅）



北前船主の館右近家（右近家住宅）



西洋館

右近家住宅は、10代目権左衛門が明治34（1901）年に拡充して建てた本宅や土蔵、本宅背後の高台にある西洋館や日本海に向けて構える長屋門等から構成されています。本宅や土蔵は路地（河野北前船主通り）の両側に立ち並び、河野特有の町並みをつくりだしています。12代目権左衛門が本宅の管理を旧河野村に委ねたのを機に、平成2年から北前船主の館右近家として、建物の公開と資料展示を行っています。

【住所】南条郡南越前町河野 2-15（JR 武生駅より福鉄バスで約30分「河野」下車すぐ）

参考資料等

千葉亮『9代目右近権左衛門一代記 萬両往来』南越前町、河野村産業観光課編『北前船主の館 右近家（総合案内）』日本福祉大学知多半島総合研究所編『越前国南条郡河野浦・右近権左衛門文書目録』河野村

執筆・協力

南越前町観光まちづくり課 学芸員 稲吉 昭彦